

## 「埼玉・栃木支部」の生立ちと現状

白倉洋平

### 埼玉・栃木支部発足と全国支部体制の確立

1962年寿会が発足してから38年後の2000年に群馬・関西・九州/中四国・中部に次いで6番目の支部として支部長原田信美のもとで発足。17年間をかけて現在の北海道～九州までの19支部制が確立。

### 設立準備期間と初代支部長

当支部は1996年6代目渡辺三郎会長の時から4年間の埼玉地区懇談会を経て今泉正義会長の時に原田信美支部長のもとで2000年に発足、懇談会時期を含め21年間原田信美さんを中心に支部運営が行われ、支部長歴17年間は寿会の中で最長記録となったと思われる、2017年85歳の高齢と体調不良で退任されました。ビクター在籍中は営業・ビクターローン会社・高柳財団で活躍され、毛筆が上手い方で毛筆を通じて幅広く活動をされ地域にも貢献されておられた様です。

### 支部活動内容

支部総会：元ビクター営業社員が経営する「道山閣」にて年1回「支部総会／懇親会」を開催

ゴルフコンペ：年2回ゴルフコンペ

旅行/見学会：年1～2回（参加者が少なく中止と成るケースも出てきた）

### 2代目支部長

横浜テレビで18年、水戸磁気製品事業で22年、(品質保証・海外生産・事業開発・興産)。2001年定年退職後私事で2008年埼玉県に引っ越す、2009年「埼玉・栃木支部」に編入。

2017年、初代支部長の高齢と体調不良とで交代時期にもかかわらず引き受ける人が居なく、やむを得ず小生がやる事となった（H.29年4月23日の支部総会以降）。

### 支部活動内容

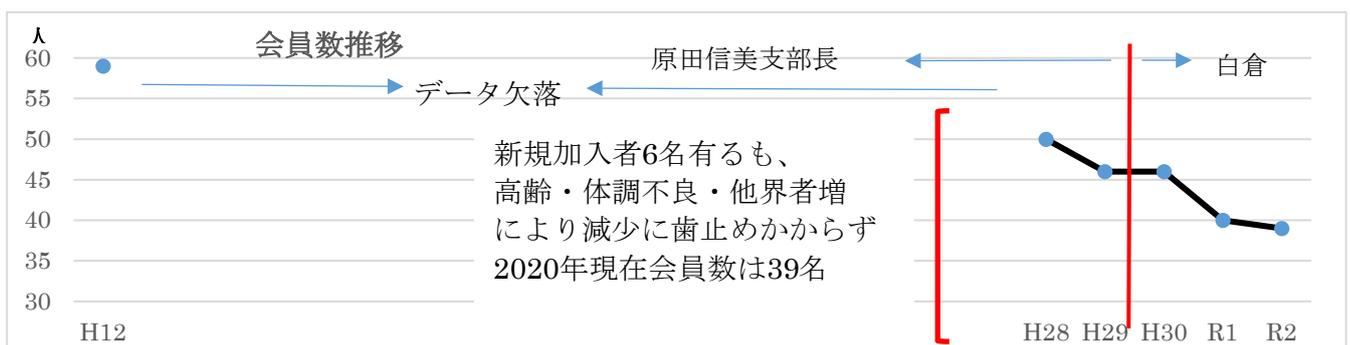
支部総会：年1回「支部総会／懇親会」開催

ゴルフコンペ：年2回ゴルフコンペ

旅行/見学会：年1～2回（宿泊旅行は参加者が少なく実施せず）

### 支部会員動向

平成19年9月1日発行の「2007年版寿会会員名簿」によれば、埼玉県在住者102名、栃木県在住者5名の計107名、在籍職場別では60以上の職場出身者からなる寿会登録者の内59名で支部をスタート。初代支部長が纏め上げるのに大変ご苦労されたのではないと思われる。



### 財政改革

10年先を見据えて、慶弔費単価5,000→3,000円に、香典は家族葬が主流となり事後連絡が殆どの為廃止、冊子代セーブの為支部印刷に切り替え、支部総会、会場変更により費用負担の3割削減、等々。最後に、支部総会参加率を約50%キープ出来ている事が、支部役員にとって慰めでもある。

支部役員照会 年4回の支部役員会で支部の運営に当たっている。



支部部長 白倉洋平



副支部長 山内敏光



経理 望月勇紀夫



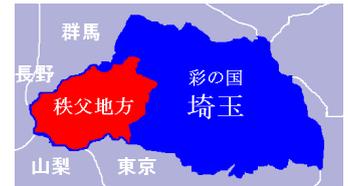
監事・情報 西泰男



旅行・(経理) 田辺幸男

## 秩父

見てよし、食べてよし、飲んでよし、歴史も満喫できる秩父は埼玉県西部の群馬・長野・山梨・東京に接した県境に位置し、秩父山脈を有する平地の少ない土地である。



**秩父夜祭** 今ではユネスコ文化遺産にも登録された、京都祇園祭・飛騨高山祭と共に日本三大曳山祭の一つ、観客は全国から23万人。

12月2日宵宮は前夜祭で4基山車と花火、3日大際は6基の山車とスタマインなどの豪華花火。

観覧席を予約し次々にやってくる山車を見るもよし、カメラを片手に山車を追い駆けながら祭りの熱気を感じるもよい。



**秩父神社** 秩父神社は秩父の歴史上要となる神社で夜祭の起源も、もとは豊作を感謝するものだったが秩父神社に妙見菩薩（女性の神）が習合された事を機に、武甲山の男の神との出会いの神事として男女の結びつき、子孫繁栄、ひいては五穀豊穰願うての祭りとなり神様だけでなく人間の男女の間でも自由な恋愛が展開していたようです。



**三峰神社** 見所で人気が高い三峰神社も素晴らしい。よくもまあ重機も無く道も悪い時代に多くの資材を運び上げて建てたものだと感心する、今でも車が1台しか通れない道をどんどん登った山のてっぺんに鎮座している、大きな鳥居をくぐり参道へ参道には多くの寄進の碑、大きな門をくぐって本殿へ、周りには多くの建物が建てられていて見飽きない。



**日本史で学んだ和同開珎** 慶雲5年（708年）秩父で産出した銅が元明天皇に献上され元号が慶雲から和銅に改元、我が国初の流通貨幣和同開珎鑄造となった。写真は聖神社と和同開珎の碑



**秩父札所 34ヶ所** 秩父観音札所巡りも、コロナ禍の中巡礼で功德を積むのも良いかも。

**羊山公園の芝桜** 秩父のシンボルともいわれる武甲山（1,304m）の麓、羊山丘陵の斜面17,600平方メートルを利用し9種類40万株以上の芝桜の「花のパッチワーク」も素晴らしい。



**秩父銘仙と秩父鉄道、秩父セメント** 秩父銘仙は崇神（すいじん）天皇の時代（紀元前97～29年）、秩父の名前のもととなった知知夫彦命（ちちぶひこのみこと）により養蚕と機織りの技術伝えられその後の改良も有り、デザイン性のある柄が全国的な人気となり、表裏の無い平織りが何度でも仕立て直しが出来、最後はオシメや雑巾に使いまわしが出来る織物として愛され秩父の財源となった。



財源と言えば次の1万円札の肖像となる商業の神様「渋沢栄一」が発起人となり敷かれた「秩父鉄道」や設立された「秩父セメント」も大きく貢献し豊かな秩父を造り上げて来たものと思われる。



**秩父そばと日本酒** 秩父は平坦な土地が少なく稲作より「蕎麦」が昔からよく作られ味も良い。武甲山の伏流水を使った日本酒も又、美味しい。

